

同窓会報 興学

発行所
山形県西置賜郡
小国町大字岩井沢
621番地
小国高等学校内
電話(62)2054
小国高等学校同窓会
事務局



全国小規模校サミット集合写真



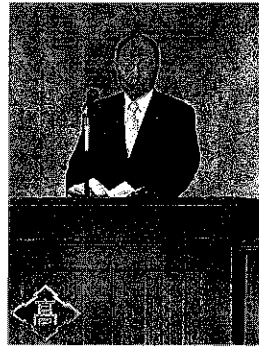
愛の鳩賞受賞 生徒会記念写真

小規模校で あるが故の団結

小国高等学校同窓会長

安部 昌 晴

(昭和四十年度卒)



平成最後の年を迎え、会員の皆さまにはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

平成三十年度役員改選に於いて、引き続き会長職を拝命いたしました。

小国高校の生徒は九十パーセントの割合で地元小国町の出身者で構成されています。小国町の子どもは減少に比例するように生徒数が減少してまいりました。

そんな中で、昨年、小国高校は全国規模のとてつもないスケールの計画を立てました。第一回全国小規模校サミットを小国会場で開催したいということで、同

窓会にも協賛の依頼があり、役員会の満場賛成の基、準備金の二十万円を皆様の会費の中より協賛金として、助成させていただきました。

サミットは、北は北海道、南は九州より一七校の生徒・教員が、小国町の旧小玉川小中学校に集い、八月二日～三日に開催されました。生徒会が企画立案し、生徒・職員が準備作業に取り組み、PTAの皆さんが食事やおもてなし、会場の準備をする。

まさに小国高校関係者全ての方々が団結し、大きな事業を大成功に収めたことは、これからの小国高校の未来を明るくするものと確信することが出来ました。

二つ目は小国高校が長年継続してきた冬季間の老人宅の除雪作業、町行事へのお手伝い、施設などの清掃作業、花の植栽等のボランティア作業が認められ、山形新聞社主催の「愛の鳩賞」を受賞いたしました。これからも先輩世代からの取り組みを継続して行ってもらいたいと思います。

平成三十一年度から小国高校は二クラス募集から1

クラス募集の独立校としてスタートいたします。

生徒数が減少し、小規模校になったとしても、学校行事は行われます。同窓会としては、後輩たちが伸び伸び学校生活を送れるよう物心両面で支援していかねければと考えます。

会員の皆さまの会費納入とご支援、ご協力を頂きますようお願い申し上げます。

地域の未来を支える人材育成校として

小国高等学校校長

柿崎 悦子



同窓会の皆様には、母校教育活動と後輩の育成のため物心両面にわたり各段のご支援とご協力を賜り、感謝申し上げます。

今年は、昭和二十三年の

創立から七十周年の節目を迎え十月に同窓生の皆様や町内中学生、地域の皆様をお迎えし、盛大に式典を挙行いたしました。また、八月に開催しました「全国高等学校小規模校サミット」では、同窓会より絶大なるご支援を頂戴しサミットを滞りなく進める事が出来ました。心より厚く御礼を申し上げます。十二月には、山形新聞・山形放送愛の事業団から「愛の鳩賞」いただきました。これも創立当初からの地域貢献という精神を、本校で学んだ同窓生の皆様が後輩に引き継いでくれたおかげと存じます。

加えて、ボランティアとしての活動を快く温かく受け入れてくださった地域の皆様のおかげと感謝の気持ちでいっぱいです。昨年も、羽越水害から五十年ということ、当時の生徒の皆さんの小国小学校での校舎復旧作業等についての尽力に褒状をいただきました。先輩から後輩への強い絆、「志」を感じます。このように生徒は様々な活動にチャレンジし、それぞれが持つ力を

十分発揮して大きく成長しています。三年生の進路はほぼ決定し、就職希望者は町内の様々な業種に多数お世話になる事になります。進学希望者にとつても、国立四年制大学をはじめ、多様な進路となりました。将来は地域に貢献したいという意欲を持った生徒ばかりで、地域を担っていくという志しい人材です。コミュニティ・スクールとして、時代に即した学校教育の在り方を模索し、未来の地域を支える人材育成校として地域と共に歩み、将来に向けて発展的に教育活動を展開していきます。



おたよりコーナー



同期会は青春維持装置？



金 田 輝 義
(昭和三十六年度卒)



級友の皆さん、こんにちは！
その後如何お過ごしでしょうか？

今日、先日の写真が出来上がりましたのでお送りしました。過日は「三六回」に参加して頂き、ありがとうございます。幹事は肩の荷をおろしてホッとしております。天神平からの谷川岳、吹き割れの滝の景観、そして宿での尽きない夜話など本当に楽しい二日間でした。事故もなく帰途に着けたことは大変良かったと思っております。

私たちは同期会を立ち上げ十余年、今日に至るまで友情の絆を「三六会」として繋げてきました。

古希を越えた翁媼が同期会と言う縁に集うことは一体何なのでしょう？

同期会は私たちだけでなく、世間には多くあちこちで日々開催されておりますが、この不思議な繋がりはい体何なのでしょう？



吹き割りの滝 十三回生有志

私はこれまで三六会の企画を何回も開催してきました

たが、その都度に思っており、感じてきたことがあります。それは同期会に参加して楽しむことはその中に青春の残り香を見出している様な気がします。投げ交わす仲間同士の会話、遠慮忌憚の、垣根の無い会話が彼方此方に飛び交うこと、昔のままの容顔を見出せることが堪らない「喜び」となっているのではないのでしょうか？

同期会は「青春維持装置」であり「青春回復剤」だ……と私は思っております。級友の皆さんは如何お思いでしょうか？

上尾高原駅で、そして幹線降車の折々に皆と再会を約する時は、本当にこの仲間と来年も再会が叶うことを願わずにはられない思いに駆られました。

それは、その時は、同時に「青春」から「現実」に戻った瞬間だったからなの

ですネ？ 次回の「三六会」へ級友の是非の参加を願っております。

追記

今回の企画は、バスによるトリップが思い出に残るものになり楽しかったとお声を伺って企画幹事として嬉しく思っております。それはあの時のバスのドライバーさんの親切なガイドが心を和ませてくれた事だったのではないのでしょうか？ 「関越交通」に感謝のお礼状を差し上げた事を併せてお伝えします。

ふるさとに感謝



(旧姓金)
草 野 信 夫
(昭和四十年度卒)



しい故郷を後にした。警察学校の厳しい訓練、教養は想像以上であった。間もなく場長(委員長)を命ぜられた。

性格、出身地も異なる、五十名の若者をまとめる事は、容易ではなかった。時には孤独に陥り自信をなくすることも多々ありました。就寝前寮の屋上で、故郷の方向を眺めると、時には優しく母の様に手をさしのべてくれた。横根山、またある時は父の様に厳しく叱咤激励してくれた沖庭山が脳裏をかすめ眼に浮かび、再び「勇氣」「自信」「やる氣」を与えてくれました。

一年間の厳しいなかにも楽しかった学生生活も無事卒業、杉並警察署に卒業配置として着任した。

いよいよ、私の警察人生の始まりである。

ふり返ると四十年余りの長い年月、数々の事件、事故などを経験、体験してきました。その中で、特に思い出に残っているのが、二十一歳で入隊した「機動隊勤務」です。

当時は、学生運動が盛んで、

春とはいえ、まだまだ寒い、昭和四十一年三月、小国高校を卒業、同月警視庁警察学校に入校するため、十八年間育ててくれた、素晴ら

羽田、成田現地闘争、東大はじめ各大学紛争、爆弾テロ等、先の見えない世の乱であつた。

しかし、これも心身共に充実、怪我なく任務を完遂出来たのは、父母、兄弟はもちろんの事、素晴らしい環境で育ててくれた故郷小国と心から感謝しております。

激動の昭和、急激な社会変化の平成時代の中で、世の中の平穩、都民の信頼に応じるため、私は、「真実一路」を信条として、常に頭の中に置き幾多の困難も克服し、職務を全うしたと今は自負しております。

「我が人生、真実一路、悔いはなし」

昨年十一月、お陰様で平成天皇から勲章を授与されました。

上司、先輩同僚の温かいご指導の賜と敬意を表しております。

この賞に恥じる事のないよう今後は、三人の孫の成長を見つめ、残された人生を楽しく過ごすつもりです。

最後に小国町の益々のご発展と町民の皆様のご多幸を心からお祈り申し上げます。

「沖庭の 雲海に

浮く島多き」

四十三年度卒業



本間 信義

(昭和四十三年度卒)



青春時代の経験が、現在も自分を奮い立たせてくれます。自分の選んだ道を一步・一步楽しく前進しています。

飯豊連峰の麓で民宿の越後屋を営み、手打ちそばや地元の食材、山菜など山の恵みを利用した料理。自然を味方にして、世界の人々の注目を浴びる様な食文化を目指しています。

四季の風景、豪雪地帯を活用しての巨大かまくらづくりを二十五年も続けています。高さ二十五メートル、幅二十メートルの雪山を作り、中央部までスコップで掘り進み、十五人位は入れる空間をつくり、その中央部には雪のテーブル、そこに設置した音響設備でジャズやスマホで配信された音楽を聴く。中の気温は0度で体で感じる音は頭のとつぺんから高温、腹から背中へ抜ける低音。内部には他にも氷や雪の彫刻などを自分が製作し癒しの空間を演出し、別世界を楽しむことが出来ます。

冬の寒さを利用しての岩魚の寒風干し。干場に吹き付ける風は、かまくらの山

に当たり風が美味しい調味料になります。連峰からの飯豊おろしが最高です。

冬の風物詩として新聞、テレビなどに掲載されています。また店内では自分が撮影した写真などで自然の美しいと思う場面を紹介しております。還暦のときには写真集も出版して、現在では三冊自费出版しマタギの里を紹介しています。是非こちらにおいての時にはお立ち寄りください。

小国高等学校

第二十七期

卒業生の歩み



金沢 誠

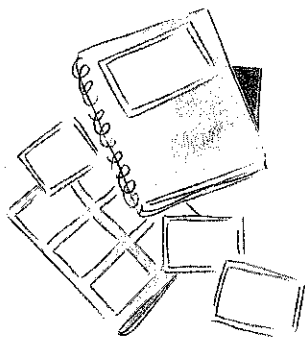
(昭和五十年年度卒)



弊した時代で、小国町での求人がほとんど無い年であり、同級生で小国町に就職できたのは数名ほどこしかいなかったように記憶しています。ですが二十七期生はこの田舎町が好きという思いが強くあり、現在は六十数名が在住しています。

卒業後は、有志での同級会を毎年のように慣行し、ノミニニケーションを図って来ました。そんな中、年を重ねる度に「同級生全員を対象に企画すんべ」という声が強まり、二〇〇四年八月北部のりふれにて二十七期生全員に参加を呼びかけ、同級会を開催しました。五十数名に参集いただき、二十数年ぶりの再会に話が弾み、青春時代にタイムスリップし、大いに盛り上がったのは言うまでもありません。閉会が近づくと「今度はいづすつべ」という声が上がります。「東京でいいべ」と約束し閉会しました。十数年が過ぎ、東京在住の同級生から「りふれでの約束どうなってる」という催促があり、重い腰を上げたのは還暦を迎える前年でした。すぐに

一九七六年三月総勢一三二名が小国高等学校を卒業しました。この年はオイルショック等の影響を受け疲



卒業して いま思うこと

(旧姓舟山)
飯田 宏美
(平成九年度卒)



幹事会を立ち上げ、東京開催の段取りは難しいべと言う事で、二〇一八年九月かみのやま温泉にて、還暦の集いと銘打ち盛大に開催しました。四十数年が過ぎ容姿などは変わりましたが、あの頃の記憶が鮮明によみがえり、大変楽しい一夜を過ごすことができました。同級生が好きで、小国町も大好きな二十七期生ですが、少子高齢化に伴う人口減少、特に新しい生命の誕生が非常に少ない現状を考えると、何とかしなければと言う思いは非常にありますが、具体策は…と言うのが現状です。

二十七期生飲み会ばかりではなく、子供達が小国町に残りたいと思える、「住みたい町に」と言う思いを強く持っている今日この頃です。

小国高校を卒業して、早いもので二十年が経ちました。

片道車で三十分の道のりを通った三年間。同級生十名で過ごした小中学校から、学年二クラスの高校への進学は、私にとって大きな環境の変化であり、その後の自分において、とても大切なことを学んだ時だったなと今になって思います。汗を流してボールを追いかけた部活動や、卒業式まで間に合わせようと、当時の担任の先生だった田近先生と友達と作った手作りの卒業文集、今でも大切にしています。

卒業後は、短大進学の為、二年間、生まれ育った「小国町」を離れました。進学

してしばらく経ったある日偶然、山形駅の近くで、ぱったり、小国高校の友達と会いました。久しぶりの再会の嬉しさと、小国から離れた地で、「小国」を感じられた安心感と、沢山の思いが重なって、二人で抱き合って泣いたことを思い出します。そして、この時に、自分にとって、「小国」が一番好きなんだと実感しました。

二年間の短大生活を終え小国町にもどり、就職して十八年。その間に結婚をして、三人の子どもの母となりました。

今、私の家の三階の窓からは、小国高校が見えます。子育てと仕事で毎日忙しい日々を送っている中でも、窓から見える体育館で頑張る高校生の姿や、体育館への渡り廊下で下がる紅白幕を見ては、自分の高校時代を思い出すひと時を頂いています。今は、少子化が進む小国町の認定こども園で保育教諭として働いています。

これから自分にできる小国町への恩返しは、「小国が大好きなこども」を育てる

感謝の気持ち

(旧姓石垣)
山口 千明
(平成十三年度卒)



ことかなと思います。大自然の中で、あたたかい人に囲まれ育った子ども達は、「必ず」小国町を大切にしてくれると信じて、これからも頑張っていきたいと思っています。

今思うと小国高校を卒業して、あつという間に月日が経ったと、その頃を懐かしく思うこの頃です。

高校時代は、友達や先生に恵まれ、充実した三年間を送る事が出来ました。

バレー部に在籍中は楽しい事ばかりではなかったけれど、仲間との信頼関係、何事も最後まであきらめない気持ち、当時の顧問の先生やコーチ、

バレー部のみんなには、感謝です。その経験が、社会に出た今、生かされています。中学から始めたバレーボール。三年生では、キャプテンにして頂き、仲間に支えてもらいながら、乗り切る事が出来ました。苦労した事も、みんなで笑い合った事も、今でも大切な思い出、宝物となっています。

今回、このような原稿を書かせて頂くきっかけを下さったのも、バレーでお世話になった駒澤さんからご依頼いただいたからです。少しの時間でしたが、お話しでき当時の事を懐かしく思い出しました。ありがとうございました。

現在バレー部は、部員不足で活動していませんとお聞きし、残念に思いましたが、活動を再開できる日が来る事を願っております。

私は今、二人の子どもの母親になり、自分が経験したような、辛い事も楽しい事も周りの人の力も借りながら、乗り越え、心身ともにたくましく成長してほしいと願いながら子育てをしているところです。親になり、

子育ての大変さを実感しながら、両親への感謝の気持ちでいっぱいです。

私が今ここににいるのも、いろいろな人に支えて頂き見守って頂いたからこそだと感謝です。

高校時代の友達とは、なかなか会う機会が少なく、寂しいですが、みんなで再会できる事を心待ちにしています。

そして、母校である小国高校がさらに発展し、魅力ある学校となりますよう、お祈りいたします。

合同同級会を

開催して



嶋 貫 政 美

(昭和六十一年度卒)



私たちは、昭和四十三年に小国町に生まれてから早いもので五十年の月日が経ちました。

昨年五十歳の節目に当たり、

小国町出身のすべての同級生を対象とした合同同級会を開催しました。正直初対面の人もいる中で、何人集まるのか、不安が入り交じった気持ちで幹事をさせてもらいました。男性二十八名、女性三十五名、計六十三名の参加があり、今までのブランクや不安を忘れさせるように和気あいあいとした楽しい時間を過ごすことが出来て、幹事一同大成功だと自負しております。

企画としては、スライドを上映し、当時の記憶を蘇らせる企画を用意し、私たちもこの時ばかりは何十年前の記憶が昨日のことのように戻ってきました。

会場に入るなり、皆の『久しぶり』と沢山の笑顔、話が盛り上がり、ワイワイと続く事。三次会、四次会まで行かれた方も数名いたりして、かれこれ十二時間近く皆で過ごした一日でした。それでもまだまだ続けばいいのと言うほど楽しく、素敵な時間でした。

幹事への労いや感謝の気持ちを沢山頂きました。開催して本当に良かったと感じ

じる皆さんの笑顔に、逆にこちらからお礼を言いたいくらいの気持ちでした。

あの頃は話した事もなかった人とも、自然に話せるようになったという不思議な感覚。歳を重ねるって素敵な事だと思います。

皆で集まると一瞬であの頃に戻る。いえ、あの頃以上に仲良く楽しく時間を過ごせる。同級生ってとてもありがたい存在で、素敵な仲間だと思います。毎日を過ごす中で、色々なことがあります。でも、この仲間達と会うと、不思議な事に何でも話せてしまう。もしかしたら、これが二十代だったらそれも無かったかもしれません。大人になって、年を重ねて、皆さん色々な経験をしてきたからこそ、いろいろな事を話せるようになったのではないかと思います。この同窓会をきっかけに、また皆で集まる機会が増えると思います。



昭和43年度小国町内合同同級会 平成30年8月14日

恩師回想

青春の夢かおる小国

高橋 惟 文先生

平成九年～平成十二年



小国高校の校歌は、他校にはあまり例の無いものと思います。校歌は、ともすると自校の自慢話になりがちですが、本校の歌詞は、一く三番のすべてが郷土、小国の讃歌で締められています。この詩は詩人として有名な芳賀秀次郎先生の作によるものです。実は、芳賀先生は私の高校時代の恩師であり、人生の師匠でもあります。

私は平成九年に小国高校に着任しました。それから三年間、恩師の芳賀先生に見守られて暮らしたような気がします。当時、私は校歌を聴くたびに「山高く人

和むわがふるさと」、「水清く風青きわがふるさと」、「青春の夢かおるわがふるさと」の部分で胸を熱くしたものでした。

さて平成十年の甲子園大会の県予選は、一回戦が過去に甲子園出場経験がある酒田工業高校でした。

前評判は小国高校がどれほど古豪に善戦するかというものでしたが、本校は全校応援態勢で臨み、声を枯らして声援を送りました。

その結果、チームは見事に勝利を収めたのでした。過去の野球実績で見れば、十両の力士が横綱に挑戦するように思われたかもしれませんが、伝統ある酒田工業高校や酒田市民にとってはかなりのショックだったでしょう。小規模高校でも、頑張れば強豪校を倒せるということを小国高校野球部は県下に知らしめたのでした。平成十年の秋、本校は創立五十周年記念式典が行われました。その時の記念講

演は、柔道の五輪金メダリスト、田村亮子さんでした。講演を固辞される田村さんを口説き落とされたのは、当時の校長、小松登先生でした。世界の「やわらちゃん」が小国高校を訪れるというので多くの町民が本校の体育館に足を運びました。金メダルを全生徒が触れさせてもらうなど、とても感動的な講演会でした。

三年間と短い時間でしたが、学校林の下刈や除雪ボランティア、中高一貫教育の試行など、内容はとても充実していたといつも懐かしく思い出しています。

教員生活の出発点

鍵水 智津子先生

平成十一年～平成十五年



二十年前の四月、初任地となる小国高校に赴任しました。打合せの際に「スキ―は持っているか？」と聞

かれ、謎が解けたのは夏、初めてボーナスを手にした頃でした。当時は冬季間に毎週スキー授業があり、学年の先生も引率指導する事を知らされました。もちろんボーナスでスキー用具一式を購入しました。スキーは初めてではありませんでしたが、幼いころから滑り慣れている生徒には敵うわけもなく、私が引率されているような場面も多々ありました。休日には先生方にスキーやスノーボードを教えていただきました。八年経つ頃には胎内や蔵王のコースも覚え、生徒たちと何処で昼食をとるか相談しながら、コースを決めて滑ったことが良い思い出です。

また、初めて担任をした生徒から、サブライズで結婚を祝う会や離任の会を開いてもらったことも大変嬉しく感激したことは今でも忘れられません。保護者の皆さんにも大変お世話になりました。小国高校での日々が今の教員としての礎となっています。

小国高校を離れて、十二年経ちます。一昨年、二回

目に担任をした学年の同窓会に出席しました。今年度は、進路担当として、小国町内の企業の方・役場の方とお話をさせていた。機会がありました。私の中では高校生の姿の皆さんが、それぞれの職場や家庭でいきいきと活躍し、地域社会の中心として頑張っていることを誇らしく思います。高校での学びを活かし就職した皆さん、上級学校でさらに力をつけて帰ってくる皆さんが、元気な地域づくりに欠かせない存在です。小国高校が地域に根ざし、なくてはならない学校であることを再確認しました。

現在指導している生徒にも皆さんの様に地域を支える人になってほしいと思っています。

最後に私の近況報告です。四十歳を過ぎて登山に興味を持ちました。学校林の下刈でウルシにかぶれた私に山に登る日が来るとは思いませんでした。まだまだ初心者ですが、いつか小国町の山々を歩いてみたいものです。同窓生の皆さん、次は山でお会いしましょう。

アメリカ短期 留学体験報告

短期留学に参加して

三年二組 佐藤 宇美



デンバーでの生活は、濃厚かつ、とても充実した二週間でした。最初は本場の英語に圧倒されてまったく話すことが出来ず、大きな不安を抱えながらの生活でした。ホストシスターのエラや、イースト高校のみんながいつも優しく接してくれたおかげで、友達もたくさんでき、不安もなくなりました。特にエラの友達のマリサとは多くの時間を共有しました。マリサは日本語のクラスではないにもかかわらず、私のために自分で勉強してくれたり、お昼や放課後にわざわざ会いに来てくれたりする優しい女の子でした。マリサ

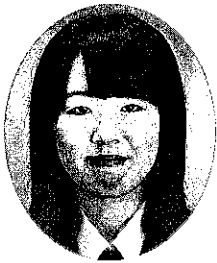
とは毎日くだらない話で笑い合ったり、散歩をしたり、授業と一緒に受けたったりして、会って二週間とは思えないほど仲良くなりました。最後には、*"we are best friend"* と言ってもらい、友達を作るために言葉の壁などないと強く思いました。私はマリサが大好きです。

デンバー体験では、自分が今まで見てきた世界の小ささを痛感すると同時に、強い刺激を受けました。自分の意見を伝えること、チャレンジすることの大切さを学び、大きく成長することが出来たと思います。

この経験を無駄にせず、これからの学びにつなげていきます。高校生のうちにこのような貴重な体験をさせていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

アメリカ短期留学に参加して

三年二組 小林ちえり



私は、アメリカ短期留学の経験を通して、二週間という短い間でしたが、たくさんの宝物を得ることができました。留学に行く前は、楽しみな反面、不安もあり緊張していました。しかし、ホストファミリーはとても明るく、優しく私を迎えてくれ、初日からすぐ仲良くなることができました。また、私は英語が上手く話せず困っている時は、優しく声をかけてくれて、とても嬉しかったです。ホストファミリーのみんなと一緒に出かけたり、ご飯を食べたりなど、本当の家族のように過ごすことができて、幸せな二週間でした。イースト高校では、日本語のクラスの授業に参加させていただき、その中で様々な人と出会い、刺激を受けました。

今回の短期留学の経験を通して、もっと自分に自信を持つことが大切だと感じました。それは、ホストシスターも含め、一人一人が自分に自信を持ち堂々と過ごしている、自分もこんな風になりたいと思ったからです。また、コミュニケーションでは、伝えようとすること、努力することが大事だと思いました。英語が上手く話せなくとも工夫して伝えようとする事で相手に伝わるということを感じました。

短期留学を体験して

二年二組 舟山 優奈



私は一年次の三月にアメリカコロラド州デンバーに二週間、短期留学に行かせていただきました。そこで私は様々なことを体験し、成長することができました。その中でも私が特に大事だと思ったことは、「やってみる」勇氣、話す勇氣、自分に自信を持つこと、そして伝えようとするこの大切さです。この二週間はとても楽しかったですが、大変なこともちろんあります。

した。自分の英語に自信をもてず、英語でどう伝えていいかわからなく「伝えたいのに伝えられない」ということがとても悔しく嫌になりました。ですがわからないなりに一生懸命伝えようとしたら、「もしかしてこういう意味？」と優しく教えてくれて、私が頑張って英語を話したらみんなも頑張って日本語で話しかけてくれました。やはり、頑張っただけで伝わらなければ相手にも伝わるのだということを改めて実感し、とりあえずやってみる、話してみる、そしてなんとか伝えようとする姿勢が大切なのだと思います。こうしてみんなと話すことにより前よりも自分に自信が持てるようになりました。この経験を糧として、これからの人生に生かしていきたいです。また、自分の中だけにとどまらず友達などに共有していこうと思います。

このような機会をいただけたことに感謝し、日々勉学に励んでいきたいと思っています。



事務局だより

平成三十年度 総会報告

平成三十年度同窓会総会が十月二十五日(木)きくよし亭に於いて開催されました。平成二十九年度事業報告及び決算、平成三十年度事業計画及び予算等が承認されました。

役員改選に於いて、長年副会長をお勤め頂いた岩沢ちかさん、佐藤悦子さんが退任されました。後任に昭和六十二年卒業の渡部(今)素子さん、昭和六十三年卒業の須貝(舟山)朝子さんが新副会長に就任されました。安部会長やほかの役員の方は留任が承認されました。

第二部の懇親会に於いては、旧職員の元校長河内昭佐先生、現小国町教育長遠藤啓司先生をお招きし、和気あいあいとした楽しい懇親会となりました。

全国高等学校 小規模校サミット協賛

昨年小国高校は全国高等学校小規模校サミットの開催を計画されました。同窓会に協賛の依頼があり、役

員会を開催し承認されましたので、協賛金二十万円を拠出いたしました。同窓会から会長、副会長、事務局長が参加し、生徒たちの活発な進行・運営を見守りました。

創立記念式典並びに 同窓会総会のご案内

平成三十一年度創立記念式典が五月二十四日(金)に行われます。

記念行事として、卒業生による記念講演が行われます。記念講演講師として昭和五十一年度卒業生の渡辺二郎氏にお願いたしました。また、同窓会総会がみよしや食堂を会場に午後六時〇〇分より行われます。

記念講演講師の紹介

講師 渡辺二郎氏
昭和五十一年度卒業生
職業 新潟市
小須戸小学校勤務

演題 「どう生きていくか」
①高校生から今までどう

歩んできたか

②スポーツとの出会い

③座禅のこと

会費納入のお願い

生徒数の減少にともない、卒業生からの入会金が減少します。母校小国高校の発展と後輩たちの教育支援のため、皆様の会費納入をお願い申し上げます。

平成29年度 同窓会会計決算書

収入の部 (単位: 円)

科目	当初予算額	補正額	予算現額	収入済額	増減	摘要
会費	1,000,000	0	1,000,000	771,630	△228,370	振り込み納入者手数料43,110円引き
入会金	215,000	0	215,000	210,000	△5,000	◎5000円×42名
繰越金	267,390	0	267,390	267,390	0	前年度繰越金
繰入金	0	0	0	0	0	
雑収入	610	0	610	63,734	53,124	講師より謝礼金寄付、名簿販売金、預金利子等
合計	1,483,000	0	1,483,000	1,302,754	△180,246	

支出の部 (単位: 円)

科目	当初予算額	補正額	予算現額	支出済額	予算残額	摘要
需要費	30,000	0	30,000	13,000	17,000	行事弁当代等
会議費	150,000	0	150,000	52,240	97,760	各種役員会諸経費等
通信費	240,000	0	240,000	119,782	120,218	ハガキ、切手、28年度会報発送費込み
印刷費	70,000	0	70,000	45,090	24,910	総会チラシ、振込用紙印刷、封筒印刷等
慶弔費	10,000	0	10,000	5,039	4,961	弔電等
教育助成費	370,000	0	370,000	198,834	171,166	アメリカ短期留学助成(132,060円)、卒業記念品、修習員記念品等
支部助成費	100,000	0	100,000	72,000	28,000	町内地区11支部助成金
特別事業基金	0	0	0	0	0	
事務費	50,000	0	50,000	22,167	27,833	事務局(用紙等)、インク代
事業費	460,000	0	460,000	418,810	41,190	創立記念式典、総会経費、会報発行等
予備費	3,000	0	3,000	0	3,000	
合計	1,483,000	0	1,483,000	946,962	536,038	

収入決算額 1,302,754 - 支出決算額 946,962 = 通帳残金 355,792

※残金の355,792円は、平成30年度へ繰り越すものとする。

平成30年度 同窓会会計予算書

収入の部 (単位: 円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘要
会費	1,000,000	1,000,000	0	年会費◎1,000円×1,000名
入会金	155,000	215,000	△60,000	卒業生入会金◎5,000円×31名
繰越金	355,792	267,390	88,402	前年度繰越金
繰入金	600,000	0	600,000	特別事業基金より一般会計繰入
雑収入	208	610	△402	預金利息等
合計	2,111,000	1,483,000	628,000	

支出の部 (単位: 円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘要
需要費	30,000	30,000	0	弁当・お茶代等
会議費	150,000	150,000	0	各種会議経費
通信費	240,000	240,000	0	ハガキ、切手、29年度会報発送費込み
印刷費	70,000	70,000	0	総会案内、封筒印刷等
慶弔費	10,000	10,000	0	弔電等
教育助成費	370,000	370,000	0	アメリカ短期留学補助、卒業記念品等
支部助成費	100,000	100,000	0	町内支部助成
特別事業基金	0	0	0	
事務費	50,000	50,000	0	用紙等
事業費	1,081,000	460,000	621,000	記念式典諸経費、会報発行、総会経費、花四輪等、全国小規模校サミット協力助成金
予備費	10,000	3,000	7,000	
合計	2,111,000	1,483,000	628,000	

生徒会長の抱負

二年二組 金 聖亜



新生徒会長になりました金聖亜です。今年度、副生徒会長として活動してきたことを活かし、学校全体が活気にあふれ、小規模校ならではの活動を行うことができる小国高校を創造できるように活動していきます。来年度の生徒会スローガン

は「飛翔」です。この背景には、今年度のスローガン「万里一空」のもと、全校生徒がそれぞれ目標を持ち、様々な行事や活動を行ってきたことをさらに向上させるという思いがあります。全校生徒がこのスローガンに向けて活動できるように生徒会長として牽引しようと決めています。

さて、小国高校は他の高校と比べて全校生徒数が少ないのが特徴です。そのため一人ひとりが輝くことのできる高校だと私は思います。今年度は第一回全国小規模校サミットが開催され、全国から高校生が集まりました。

平成30年度進路状況

小国高等学校進路指導課

進路決定状況 (3学年:在籍数31名 男子21/女子10) 平成31年2月12日現在

進路	大	短	専	そ	西	県	職	就	公	自	合
先	学	期	門	の	置	内	県	職	務	家	計
男	3	0	4	1	0	10	0	1	0	0	21
女	2	1	5	0	0	1	0	0	0	0	10
計	5	1	9	1	0	11	0	2	0	0	31

進学先

【大 学】新潟大学経済学部経営学科/東北公益大学公益学部公益学科/金沢工業大学工学部情報工学科/新潟リハビリテーション大学 医療学部 リハビリテーション学科 リハビリテーション心理学専攻/福島学院大学 福祉学部 福祉心理学科

【短期大学・短期大学校】産業技術短期大学校 土木エンジニアリング/東北文教大学短期大学部子ども学科

【専門学校等】看護リハビリ新潟保健医療専門学校看護学部/アミューズメントメディア総合学院/にいがた食育・保育専門学校えぶるん/国際外語・観光・エアライン専門学校 国際エアライン科/国際ビューティーモード専門学校 美容学科/仙台ビューティーアート専門学校/新潟調理師専門学校/日本ホテルスクール/山形調理専門学校

就職内定先

【西 置 賜】クアーズテック(株)小国事業所(3)/グローバルウェア・ハズ・ジャパン(株)小国結晶センター(2)/サンリット工業(株)/デンソー山形(株)/東北自然エネルギー(株)/山和建設(株)/特別養護老人ホームさいわい荘

【県 外】理容ブライジュ新発田店/サン・フルール(新潟市)
【公 務 員】小国町役場/置賜広域行政事務組合(米沢市)

活動の一つのワークショップでは、小規模校だからこそ持ち得るアイデアを出し合い、充実した話し合いになりました。また、これまでの本校での活動が認められ、山形新聞社主催の「愛の鳩賞」を受賞しました。これらの活動や評価を契機に小国高校の学校行事やボランティア活動をもっと多くの人に知ってもらい、今年度のような活動を通して、小国高校への入学を希望する中学生が多くなればうれしいです。

来年度は、今年度の活動をさらに発展させると共に、あいさつ運動をはじめ、ボランティア活動を通して地域の方々への感謝の気持ちを形にしていきます。

ビジネス文書
実務検定二級合格者

三年二組 八幡 竜馬



私はビジネス文書実務検定一級を受験するにあたり、毎日速度練習を行いました。初めは、画面を見ながら打つことが全くといっていいほど出来ませんでした。練習を続けていく中で少しずつキーボードから目を離し打ち続ける事ができるようになりました。また、速度の練習だけでなく、文書作成も早くなるために、ショートカットキーや作成順序、操作方法などを先生に相談したり、自分で調べたりという努力を重ねてきました。その結果合格することができました。

この結果を通して、毎日継続して練習することで必ず結果に現れるということを実感しました。この先も目標を持ち、毎日継続して努力していきたいです。

編集後記

創立七十周年を迎えた今年、小国高校で取り組まれた「全国高等学校小規模校サミット」。暑い夏の熱い取り組みは大きな成果をあげました。また、地道に継続してきたボランティア活動で「山新愛の鳩賞」を受賞したこと、生徒たちが編集して発行している情報紙「Ogu」は今年で第十一号になりました。

様々な場面でいきいきと活動する小国高校生の様子は、「白い森おぐに教育フォーラム2018」で報告され、多くの市民の皆様に知っていただけたと思います。

「ちいさな学校に誇りを持つ」ということは、小国に誇りを持つということ。」

同窓会員の一人として、これからも小国高校生の活動を応援していきたいと思っています。

(原田)

事務局編集委員

事務局長

高橋 義彦
駒澤 堅一
原田千鶴子
齋藤 香穂
白川 朋絵